

畑石議員（自民議連）

令和6年12月12日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）今後の高校教育のあり方について

これから本格的な生産年齢人口減少時代を迎えるにあたり、今後の高校教育のあり方、また職業教育や高校の再編の考え方について、県としてどのような見解を持っているのか教育長の所見を伺う。

（答）

今後の高等学校教育におきましては、デジタル技術の高度化など、社会の急速な変化や、人口減少の進展等を見据え、地域や企業など多様な主体との連携を図りながら、実社会をフィールドとした主体的・対話的で深い学びを実践する教育活動を展開していくことが重要であると考えております。

また、高等学校段階は、自己及び自分の置かれている現実としっかりと向き合い、自分の将来を見据えることで、課題に立ち向かい、解決していく能力などを身に付け、自己実現につなげていく重要な時期となります。

こうしたことから、全ての高校生が社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を確実に育成した上で、生徒それぞれの能力・適性、興味・関心等に応じた学びが実現できる教育活動を展開することが大切であると考えております。

その中で、職業教育は、職業との関連が深い実践的な教育を行うことにより、職業人に求められる倫理観や専門的な知識・技能、創造力等を育成し、産業界のニーズに応えるとともに、産業界等と連携しながら、学校での学びを実社会と結びつけることにより、生徒が学び続けることの意義を見出し、社会で生きていく力の育成に取り組んでいるところでございます。

今後の高等学校の在り方につきましては、本年3月に策定した、「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画・第2期」におきまして、全県的な視野に立って、私立、市立及び国立高等学校と協力し合いながら、役割分担を図り、こうした多様なニーズに応えることのできる県立高等学校の配置を検討していくこととしております。

農業科や工業科などの職業系専門学科につきましても、基本計画におきまして、技術革新の進展等に対応するために必要となる資質・能力を培い、地域の持続的な成長・発展をけん引する職業人材を育成していくことができる

よう、実践的・体験的な学習活動の推進に向け、学科等の改編も検討することとしております。

教育委員会といたしましては、基本計画に沿って、学校や学科等の配置について、様々な観点から検討を行うことにより、生徒一人一人が、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる高等学校教育の更なる充実に全力で取り組んでまいります。